

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601239		
法人名	社会福祉法人 平和の聖母		
事業所名	グループホームメゾンマリア		
所在地	福岡県久留米市津福本町字草場272-1 (電話)0942-35-8777		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果確定日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

市内中心部に近いため公共交通機関が充実しており、近隣にはグループ法人でもある総合病院や看護大学があり、地域の社会資源として多様な面で連携している。
事業所内では、個別性の高いケアに向け、全室に睡眠、呼吸、体位状況をトータル的に把握できる見守りシステムを導入している。建物は四方から中庭を臨める造りとし、どこにいても四季の移ろいを感じることができ、併設施設とも非常災害時や管理栄養士を中心とした食事、栄養バランス面で連携している。リビングは床暖房と二重床構造を整備し、快適さと安全面に配慮し、多目的室は、家族の面会宿泊等に活用している。内部外部問わず、関係機関と協働で多世代を対象とした地域支援活動にも積極的に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成30年12月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当施設は、2階建ての回廊型鉄筋コンクリートの建物で、交通の便がよい街中にある。居室は建物の南側に配置され、リビングは明るく、広々としている。法人内やグループホーム内の行事は、充実しており、地域との交流も盛んに行われている、職員研修は、外部の講師に依頼し、家族の参加もあり幅広い内容で行われている。職員が、親身になって利用者のことを第一に考えて、丁寧に接している。開設後2年目であるが、今後に期待できる施設である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務前に各々が唱和することで、全職員の意識を高めることとしている。また、管理者等が理念の実践に通ずる外部研修に参加し、その内容を広く認知させることで、利用者一人ひとりを尊重したケアと充実した生活の提供に繋げている。	カトリックの精神を取り入れた、事業所独自の理念がある。地域との交流には、力を入れており、地域密着の実践はある。朝礼で唱和し、内部研修で理念について話し合い、共有している。日頃のケアや入所者との関わりで理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	個人団体を問わないボランティアを積極的に受け入れている。また、地域交流を主としたイベントとして、夏祭りやバザー等を定期的実施することで、多世代との関わりや交流に繋げている。自治会や地区社協、児童委員とも協力し、いきいきサロンやキッズクラブ(子ども食堂)の実施と参加を継続している。	家族や幅広いボランティアの方と交流をもっている。併設施設合同の夏祭りやバザーは盛大に行われている。看護大学生や介護福祉専門学校の実習生の受け入れや保育園との交流する機会が定期的にある。子ども食堂に参加している子供達が遊びに来る等地域の方と日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践や外部研修等で得られる認知症の方への包括的なケアの在り方をより具現化できるよう、認知症キャラバンメイトとしての活動や地域での認知症声かけ訓練への参画、地域包括支援センターと協働したおしゃべり会や地域資源マップの作成に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	継続して参加者が平均20名程度となっており、あらゆる立場及び視点による意見をいただける機会となっている。今後も意見を発信しやすい雰囲気作りを努めると共に、可能な限り迅速に取り組む、サービスの更なる向上に繋げる。	運営推進会議は、2か月に1回開催している。利用者の家族は毎回10名位の参加がある。会議で利用者やサービスの実際、評価の取り組み状況を報告している。希望される外出先や面会時間・食事のイベントについて、家族より意見があり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	開設1年を過ぎた程度であり、経験や知識不足が否めない。それを踏まえ、運営及びサービス提供に係る内容は、都度確認することとし、適正なサービス提供に繋げている。定期的な運営推進会議に限らず、外部活動等でも関わりを深め、事業所の実情を随時報告することで、それに沿った助言等を得ている。	普段から行政とは電話や窓口に出向き、報告・連絡・相談をしている。2か月に1回おしゃべり会を開催したり、キャラバンメイトとしての活動をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員を配置した上で、身体拘束廃止に関する指針の整備や月1回の発生状況の有無、研修等による意識と知識の向上を図ることとしている。環境面では、利用者の安全面及び施設の防犯面にも十分配慮した上で、メイン玄関の施錠は避けている。構造上も閉塞感も排除できるよう、日光が注ぎ外気が差し込む造りとしている。	立地条件でやむを得ず玄関の施錠をしているが、家族の同意をもらっている。利用者の外出傾向を把握し、見守りや歩行時付き添いをしていない。身体拘束に関するマニュアルがあり、内部研修をしている。記録関係は整備されている。	立地関係による玄関の施錠があたりまえにならないように、安全面を配慮しつつ、少しの時間でも施錠しない時間を設けることができるようなケアの工夫等の検討してほしい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	担当職員を配置した上で、毎月1回発生状況等を確認し必要に応じて再発防止に向けて検討している。外部講師による研修を通して、些細なことや何気ないことが虐待に繋がることを意識し、普段からの言葉使いやマナーにも気を配ることとしている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	携わる機会が多いとは言えないことから、制度自体や知識について十分とは言えない状況である。ただし、実際に活用している利用者もいるため、関係者との連絡はもとより、制度の動向にも注視すると共に外部講師による研修を実施することで、まずは制度全般の理解を深めることとしている。	権利擁護に関しては、契約時や必要時に家族に説明をしている。講師を招き、併設施設合同で、権利擁護について、研修を行っている。外部研修に参加した職員が伝達研修を行っており、記録類は整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容については、丁寧に説明しながら進め、項目毎に適宜不明な点等について確認するよう努めている。内容の変更については、随時覚書等にて対応し、必ず説明の上、書面にて同意を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の関わりや日常のコミュニケーション、表情から利用者の要望把握に努めている。特に意思疎通が困難な方については、動作等の変化を通して潜在的ニーズの把握に努めている。法人内には有識者による第三者委員を設置し助言等を受けると共に他の第三者機関等の連絡先等も掲示している。	利用者は日頃より、自分の思いや要望を職員に伝えている。夢実現プロジェクトで、お墓やお寺参りに一緒に行く等、希望を反映させている。家族の面会は多く、その都度利用者の状況を報告し、意見を聴いている。訓練の際の誘導方法のアドバイスや、キャンドルサービスの実施等家族の意見を運営に反映されている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的実施する職員面談において、業務全般に関する意見、要望を把握し、内容によっては積極的に導入し業務再編に反映させている。管理者に限らず、他の役職も面談を実施することで、リラックスした雰囲気からの柔軟な意見の吸い上げを重視している。	今回の外部評価は、全職員で話し合いに取り組んだ。管理者は職員の声かけを密に行い、年2回個人面談やミーティングで職員の意見を聴くようにしている。業務内容や勤務の流れ等の職員の意見は、すぐに取り入れるようにしている。やむを得ない場合を除き、離職を最小限にするように管理者は努力している。2ユニット間の職員や利用者の交流は日頃からある。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各々のモチベーション向上に繋がるよう、個性や考え方、展望を把握するよう努めている。定期昇給等を始めた賃金形態はもとより、LTD制度への新規加入、健康診断や職員旅行、有給休暇の消化、正規職員への昇格、子育て支援や資格取得に向けたシフト調整も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用にあたっては労務の専門家や公共機関へ適宜助言を求めると共に、スキルや経験の有無にこだわり過ぎず、福祉従事者としての姿勢や人柄を重視している。個性を尊重しつつ能力を最大限発揮できる雰囲気を作り、自ら考え行動に移す取り組みを推進、サポートしている。	性別や年齢等特定の理由で、採用対象からは排除していない。60歳が定年だが、希望があれば、65歳まで勤務は可能。資格所得やキャリアアップの希望があれば、勤務を配慮する等、職員の能力や意欲が活かせるように、安心して働ける職場環境づくりを目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員研修では具体的なテーマを設けて実施し、外部研修の参加と併せて知識の習得を重視している。加えて、掲示物等を通じて啓発すると共に、随時見聞きする機会を設けている。法人理念にも通ずるものであるため、理念倫理観を始め専門職としての責務や姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。	全職員、内部・外部の人権研修に参加している。講師を神父に依頼し、職員のみではなく、希望する家族にも参加してもらっている。研修テキストや記録は整備されている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験、未経験問わず、入職後はマニュアルに沿って、一定の研修機会を設けている。内部研修においても、現場職員自らが計画実施することで、振り返りや新たな知識の習得に限らず、講師となることで伝える力の醸成に寄与させている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や多様な団体主催のイベント等に参加することで、ネットワークの構築に努めている。サービス種別を問わず交流を活性化することで、新たな視点で取り組むことの重要性を知ることができている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者の関係者から情報収集した上で、初期の関わり方を検討し実践している。話しを伺う姿勢や質問の仕方を始め伺う場所にも配慮している。非言語コミュニケーションを意識することで、潜在的な要望、ニーズを引き出せるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り直接顔を合わせて話しを伺うことで、良好な関係づくりに繋げ、利用者との関係性も把握することで、双方の意向に沿えるよう努めている。些細なことが不信感にも繋がるため、時間帯等も考慮しながら簡潔かつ正確な報告にも気を配ることが必要である。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各関係者からの情報、初回面談等を通じて、本人及び家族の現状を照らし合わせるようにしている。内容が狭まらないよう、併設事業の専門職にも助言等を求め、幅広くかつ柔軟な視点でニーズを捉えながら、直接的な部分に限らずその他の社会資源の活用を提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット内の作品展示を始め、各種イベントの準備、おやつ作り等、利用者と職員の共同作業を積み重ねることで、密接な関係性の構築に繋げている。日々の生活、支援の中においても、単なるコミュニケーションにならぬよう、声かけの内容を工夫している。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	比較的面会の頻度も高いことから、家族によっては職員との関係性も深くなっている傾向にある。それにより、単なる現状報告に留まらず、支援の内容や今後の方向性を共有できている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人を始め、利用者にとって馴染みの人と職員も積極的に関わることで、その関係性を知ること、訪問しやすい雰囲気作りを努めている。お墓参りやお寺、自宅等の心の拠り所であると捉え、馴染み深い場所にも定期的に出向く機会を設けている。	利用開始時に利用者の馴染みの場所や人について、情報を利用者や家族から聴いている。ドライブ時になじみの店や場所を通ったり、家族の協力を得て、馴染みの美容室や化粧品を買いに行ったりしている。友人や知人が面会にみえた時は、ゆっくり話ができるように配慮する等支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握した上で、関係性を構築できるよう日々の活動を工夫している。心身の変動がある中で、顔を合わせる機会もあるため、席の配慮や声かけのタイミングを察知した上で、トラブルや孤立の回避に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所への訪問や関わりは継続できている。必要に応じたフォローを心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	事業所本位のアセスメントにならないよう、職員各々が利用者の生活背景や個性を把握しながら共有する機会を設けている。意思疎通の有無に限らず、表情や些細な言動からもしっかりと読み取ることとし、実践に繋がっているが、それが全てとは言えないため、行動への移行の必要性を再認識していく。	職員は、利用者に対して普段のしぐさ、行動から、言葉に表せない思いを察知し受け止めるよう努めている。その思いはミーティングで話し合い情報を共有し統一した支援に繋がっている。結果として笑顔など表情が増えた利用者がある。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族を始めとした関係者にこれまでの生活歴と心身に関する情報を確認している。併せて、直接本人に確認することで、こだわりや生活スタイルの把握に努めることで、様々な社会経験で積み重なった本人の馴染みの暮らしの実現に繋がっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりが自分のペースで思い思いに過ごせるよう、日常の中の些細な変化を見逃さないよう努めている。利用者に任せきりにせず、安全面に配慮しながら、時には変化を加えられるよう、積極的に声かけ等を行っている。ただし、職員の一方的なものにならないよう注意しておく必要がある。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、現場職員からの利用者本人の現状、主治医等の助言を集約した上で、本人と家族の意見や意向を基盤に計画に反映させている。計画作成担当者の知識や経験が豊富とは言えないため、実践を積み重ねながら、より客観的な視点で作成していく必要がある。	介護計画を作成するに当たり利用者、家族を交え話し合いが行われ、生活に対する意向が反映できるよう具体的なサービス内容が話し合われる。主治医から医療面に関するコメントもサービス内容に反映されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は継続して専用のソフトを基本に事業所独自の様式も組み入れることで、利用者の個別性に沿った項目を記入でき、情報共有の円滑化を図っている。記録内容の簡略化や所用時間の軽減に向けて取り組んでいるところである。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人の希望、家族の希望、双方の希望を把握することで、その実現に見合った支援を柔軟に提供している。利用者個々で希望の度合いに差異が見られるが、今後も継続することで、その実現が生きがいや目標となるよう柔軟に取り組む必要がある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設事業と協働での地域向けのイベントへの参加やボランティアの受け入れ、地域の保育園等との交流を実施している。単なる関わりだけではなく、共に作る、動くことを中心にすることで、日常では見られなかった利用者の表情を見ることができている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所が特定せずに、本人や家族の意向に沿って支援している。状況に応じて変更等が必要と思われる際には、事前に本人及び家族へ相談の上、移行することとしている。かかりつけ医には、随時連絡、相談をすることで、本人の状態を共有できるよう努めている。	利用開始時より安心して医療が受けられるよう基本的に主治医を変更せず対応している。受診の必要性がある場合は診療科目問わず職員が付き添い、送迎まで手厚く支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な体調確認に限らず、日中夜間問わず相談連絡が取れる連携体制となっている。日常の状況においては、共通の記録を使用することとしており、常にタイムリーな情報を共有できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人が協力医療機関となっており、総合病院でもあるため主とした入院機関となっている。入退院時以外でも日常から適宜MSW等との情報交換等を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の説明を細やかに確認しながら行うこととしている。利用当初よりも利用者の状態が変化した際には、その都度再確認することとし、その方らしい最期を支援する。本人のみならず、家族支援にも適切に携われるよう、その関わり方や必要なスペースを確保し、かかりつけ医や訪問看護とも連携していく。	重度化や終末期の在り方に関して明文化され職員が家族へ説明し同意を得ている。体調変化時にはその都度主治医と連携し家族の不安が無いように意向確認しながら支援している。開所してからまだ看取りの実績はないが主治医の助言を得ながら支援する方針である。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	突発的な発生に備え、マニュアルを整備すると共に、定期的な訓練及び研修を実施することで意識を高め、発生時に迅速に対応できるようにしている。職員によって対応力に差があるため、研修等を繰り返し、全体的な技術の底上げが求められる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	比較的高い耐震耐火性能をもとに、非常災害時のマニュアル整備や併設施設と協働での昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路も複数設け、安全で確実な避難及びその誘導の繋げている。風水害時でも安全が確保できるよう、ポンプによる排水訓練を実施している。	事業所独自に月1回のペースで避難訓練が行われている。内容は火災だけではなく風水害に対しても訓練が行われ浸水想定排水ポンプの取り扱いも実践している。備蓄は食料品・飲料水を主に事業所内と隣接施設に分散して保管し非常時に備えている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を敬うべきことの一つとして、言葉使いを始めとした接遇面が挙げられる。定期的な職員研修を通して自己の振り返りやその徹底に努めている。声かけについても、内容に合わせて場所や声の大きさを意識し、利用者が不快にならないよう気を配っている。	利用者の羞恥心を考え入浴や排泄介助、声掛けの方法や距離感、内容など注意して関わっている。法人として接遇教育にも力を入れ内部研修が行われている。排泄チェック表の内容や薬袋の処理方法まで第三者へ漏えいが無いように管理している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の全てのニーズを把握できているとは言えず、それにはこちらからの引き出す能力も不可欠となる。まずは、日々の関わりを通して、意思疎通の有無に限らず、些細な言動や表情の変化を察知し職員で共有し、支援を充実させる必要がある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等の定型されたものはあるが、それらのスケジュールに捉われ過ぎぬないようにしている。本人の表情や活気等の状態、日々変化する意向に柔軟に合わせることで、快適な日常生活に繋げている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の生活の場での衣類については、本人が選び、希望に応じて訪問の理美容を依頼する等、清潔感のある身だしなみにも配慮している。買い物等でも、思い思いに購入できる機会を設け、おしゃれを楽しんでいただけるよう心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座位でも調理等に参加できるキッチンを設置しており、身体状態に合わせて準備や片付けに取り組んでいる。準備の際には、エプロンやキャップを着用してもらうことでメリハリを付け、意欲の向上を図っている。嗜好に沿うだけでなく、食材や献立にも気を配っている。	利用者は食事の準備、片付けなど日課として取り組んでいるが日曜日の昼食は調理までフロアキッチンで行う。パンバイキング、ビアガーデンなど食の楽しみの企画回数は多い。嚥下状態に応じた食事形態や減塩食なども対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や心身の状態によって食事、水分摂取量も変化することから、摂取状況については記録に残している。必要に応じて併設施設の管理栄養士を始め主治医とも協働し、栄養補助食品や食事形態も柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を徹底し口腔環境の清潔保持に繋げている。虫歯や義歯の不具合による不快感は食欲低下等を招くため、協力歯科機関との連携をもとに、口腔環境の維持向上に繋げている。今後はブラッシング指導を受ける等、高い意識でサポートしていく。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握しつつ、タイミングや声かけの方法も個別に実施している。様々な心身状態の中、トイレで排泄するにはどうすれば良いか。を念頭に関わること、自立した排泄に繋げている。また、トイレの設置場所や設備も充実させることで、利用者職員双方の負担軽減も図っている。	利用者一人ひとりの排泄サインやパターンを把握、プライバシーにも配慮した声掛けなど工夫している。パッドの種類も家族と相談しながら適切な支援を心掛けている。トイレも広く車椅子の利用者でも介助しやすい個所に手すりも設置されウォシュレットも完備している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック主にした状態確認をベースに、便秘による苦痛や生活意欲の低下を避けるようにしている。水分摂取や食事による自然な排便が望む形ではあるが、必要に応じて、個々の身体状態に合わせて主治医へ相談し、内服薬等による対応も実施している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は本人の希望に沿ったタイミングと余裕のある時間で提供している。設備面でもシャワールームやシャンプー台を設置し、気分や要望に合わせての提供を推進している。また、利用者全員がゆったりと浴槽に浸かれるよう、複数での介助や機器を活用している。	入浴は毎日準備され通常午前中入浴が多いが状態や希望に応じて時間をずらした対応も可能である。個別浴槽にはリフトも備え付けてあり、状態に応じて介助できる。浴槽横のトイレにシャワーが設置され便汚染時にも対応しやすい。洗髪のみ希望者にも対応できる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な休息を組み入れながら、活気ある時間を過ごせるよう努めている。過度な休息は夜間快眠の妨げや、意欲の減退にも繋がるため、利用者個々の心身状態と日々の変化に注意しながら、場面ごとで声かけの内容を変化させ、安眠や休息に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず薬の説明書を確認し、用法用量を始めとした注意点を把握している。服用の際には、カレンダーへのセット段階のみならず、提供前の2名以上での声出し確認と別ユニットへの提供報告を徹底することで、2重チェックをしている。また、必要に応じて薬局等にも問い合わせることで、服薬の重要性を意識している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	屋内での食事準備や環境整備、屋外での農作物等への水やり等をコミュニケーションの一つとしても捉えながら、その成長過程や変化を実感できる機会としている。趣味活動は、気分に応じて選択できるよう複数準備し、活気ある日常になるよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事、近隣への散歩、スーパーへの外出に限らず、敷地内での畑や植物への水やり作業等を通して、簡単かつ短時間であっても屋外に出る機会を増やしている。本人の希望を聴き取り、それに沿った外出の支援も家族の協力を得ながら実践している。	利用者一人ひとりの希望を聞き外出行事を企画している。特に買い物や外食、遠方へのドライブは平均すると週1回以上の実績がある。外食は寿司、麺など利用者の希望に沿い地域の飲食店を利用している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物での品物の選定、支払いまでを可能な限り本人のペースで行えるようサポートしている。管理方法の報告は徹底できているが、お金への直接的な働きかけは少なく使用頻度も利用者によって異なるため、バランス良く機会を設ける必要がある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙によるやり取りは少ないものの、希望に応じてその機会を設けている。手元にある手紙やメッセージについても、本人の意向を確認しながら、居室内に飾る等の支援を行っており、心地良さに繋がっていると思われる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全方向から中庭が目に入る開放的な造りとなっているため、四季折々の空間を感じる事ができるようにしている。室内の設備についても、色彩のバランスに考慮し、落ち着いた色のあるデザインにしている。	居室と共用スペースは中庭を囲むように距離感が保たれて個人のプライバシーに配慮した構造になっている。フロアの天井は高いため圧迫感を感じられずガラス窓も大きいので自然光が十分に満たされる。利用者の貼り絵などの作品も飾られている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部の一つとして多目的室を設置しており、お独りの時間や家族等との時間に配慮している。共用部分は、日常の活動を充実させることで、利用者同士が楽しめる場となっている。今後はニーズに合わせた設備等の導入も計画中である。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースに制限はあるものの、基本的には居室内には入居者それぞれが馴染みの物を持ち込めるようすることで、落ち着ける空間作りを心掛けている。写真や家族とも思い出の品等も増えており、個性溢れる居室は、清掃や換気に気を配ることで、生活感の中での清潔感も意識している。	居室は使い慣れた家具、テレビ、仏具など持ち込み可能で個別に対応している。ベッドはハイテクノロジーを駆使したシステムが導入され寝返り、呼吸、心拍等睡眠状態がセンサーで測定され転倒防止や生活習慣の改善につなげている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりが身体状態に合わせて移動できるよう、建物全体に手すりを設置している。また、共用部と居室間にベンチを設け、自分のペースで歩行できるよう配慮している。トイレは閉塞感のないよう空間に余裕を持たせ、付属設備も充実させることで動作補助及び介助者の負担軽減にも役立っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体に理念が浸透するよう、全体での唱和に加え、定期的な研修を実施し、その意味合いについても理解できるようにしている。そこから、福祉従事者として在るべき姿を体現させ、利用者一人ひとりを敬いながら、充実した生活の実現に向けて支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学生ボランティアとの交流が頻度として多いが、近隣の保育園との交流に定期的に取り組んでいる。施設主催の夏祭りやバザー、総合防災訓練を実施することで、地域交流を図っている。外部機関とは地域住民向けのいきいきサロンやキッズクラブ（子ども食堂）にも参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでの実践を通して得られた認知症の方への支援経験をもとに、認知症キャラバンメイトとしての活動や認知症推進員との地域での認知症声かけ訓練、外部機関主催の認知症イベント等での講演等幅広く活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族他、関係機関等からの参加人数が平均20名程度となっており、単なる報告事項のみではなく、多様な視点による意見等が挙がるような雰囲気作りに努めている。挙げられた意見をもとに、日常生活上の改善を図り、新たな支援に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営及び指定基準から通常の支援の提供に関することまで、適宜相談することとしている。運営推進会議を通しての助言や他事業所の事例を用いた説明を受け、事業運営の参考にしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針をもとに理解と意識を深めている。担当職員を配置し、月1回以上の会議等にて併設事業ち併せて発生の有無について報告する場を設けている。施錠については、安全面を配慮した上でユニット間を行き来や、自由に思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	発生状況等については、定期的に報告することとし、地域包括支援センターの職員を招いての研修を定期的実施している。些細なことが虐待に発展することを念頭に、職員同士が現場で互いの支援方法等について指摘し合えるようにしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な制度の理解を深めるために、外部講師を招いての研修を実施している。普段触れることが多いとは言えない制度であるからこそ、常に情報収集を怠らず、関係機関等と連携を図りながら、スムーズな支援に繋げていく。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書は細部に渡り説明を重ね、適宜質問事項を確認することとしている。内容によっては、順を追って複数回説明している。各項目における中途変更、特に経済的部分については、説明を実施した上で、別に文書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見を常時確認し反映できるよう、利用者へは日頃の関わりから、家族からは面会時及び運営推進会議を通して把握に努め、出入り口には意見箱を設置している。契約時には第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関に関する説明を行っている。第三者委員においては、定期的に助言を得る機会を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談の機会と併せて、ミーティング等を通して意見を集約している。集約した意見は、全体で検討を重ねた上で業務に反映させている。突発的なアイデアも意見として取り上げ、既存の枠に捉われない柔軟な発想を重視している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や職種を越えてコミュニケーションを図れるよう雰囲気作りに努めている。定期昇給や就業規則の見直しに取り組んでおり、各々の努力が報われるよう、キャリアパス規程をもとにした昇格も実施している。所得補償保険にも法人負担にて加入し、将来的な部分も手厚くしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集採用にあたっては、意欲や姿勢を重視することとし、年齢性別を始め知識やスキルの有無ではなく、意欲や前向きな姿勢を重視した採用を推進している。職員個々の柔軟な発想を現場の中でも積極採用し、やりがいある職場環境の構築に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にも通じるものがあるため、法人単位で取り組むべきこととしており、定期的な職員研修や外部研修の他、随時掲示物や文書等での啓発に努めている。人権意識を継続できるよう併設事業とも協力し、情報共有を図っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場研修の際には担当者を一名配置し、支援方法等を伝達している。それと併せて、接遇マナーや災害関係等における内部研修を充実させている。一方的な教育にならないよう、週間月間単位で面談を実施し、本人の考えや現在地と施設の方針等に相違が無い確認をしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会を始めとした各種団体、地域包括支援センター主催の研修会等に積極的に参加し、新しいネットワークを構築している。他施設との交流も実施することで、様々な発見に繋がり、柔軟な支援の参考にしている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前準備として、利用者の基本情報を家族や関係者から収集した上で、やり取りの内容やタイミングに気を配っている。訴えにはしっかりと傾聴することとし、一度で利用者の全てを知って終わるのではなく、複数回重ねながら利用者にとって安心できる存在であると感じ取れるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係性を築くことが要望や希望を引き出す要素となるため、家族が関わりやすい施設と職員像の構築に努めている。利用者と同様にサポートすべき存在として、日常での些細な関わりも重要視している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの提供に向け、制度等の知識習得に努めている。それをもとに、利用者や家族が求めるサービス像を把握し、スムーズな支援展開に繋げている。初期の段階では、コミュニケーション能力も同時に求められるため、内部外部研修に参加することでスキルアップを図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自らが日常的にしたいこと、今後の目標としてほしいことの把握に努め、積極的にその実現に取り組んでいる。職員をサポートする立場を認識できるよう、声かけや活動内容を工夫し、互いに支え合っている関係性の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常の面会時に限らず、家族参加型のイベントを定期的を実施することで、普段とは異なる利用者の一面を引き出している。共に利用者を支える一員となれるよう、今後も家族の思いをしっかりと共有していく。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人や併設事業で付き合いのあった利用者との関わりも頻繁にあっており、その継続に向け関係性の把握にも努めている。施設側も友人等とのコミュニケーションを積極的に図ることで、来訪しやすい雰囲気作りを推進している。継続して行きつけの美容室やスーパー等への外出を支援しながら、住み慣れた地域との繋がりに努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身状態は様々であるが、食事の準備や日中活動時に利用者同士が支え合う場面が頻繁に見受けられる。独りから集団までの活動をバランスよく実施することで、利用者間の関係性の構築に繋げている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から別件での相談がある等、連絡を取り合う関係を継続している。今後も地域を支える一員同士としての関係性を構築していきたい。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの生活歴をもとに直接の聞き取りに加えて、日常の会話や関わりを通して意向を汲み取ることとしている。得られた多様な意向については、定期的にユニット単位で検討を重ねることで、スムーズで着実な実現に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や基本情報のみならず、家族を始めこれまで関わってきた他職種や関係者からも得ることとしている。特に生活環境が変化した際の心身状態については、注意深く確認することとしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	平穏な日常生活の中でも常に変化の有無に気を配っている。単調な日々を過ごすのではなく、利用者の現状が最適であるのかを常に疑問に持つよう努めている。新たな活動の実施や職員利用者双方が取り組みやすく、かつ意欲の向上に繋がるプログラム等を検討、実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、多職種を交えて検討することで、幅広い視点で課題等を抽出している。家族等の第三者を交えることで、単に意見や要望を取り入れるのではない、より客観的な計画作成に繋げている。可能な限りユニットの計画作成担当者が互いの計画をチェックすることで、偏りのない計画になるよう努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の様式自体を利用者や事業所の現状に合わせて更新させることで、より実践に反映させやすくしている。定型の様式に偏らず、軽微なものは簡易的なノートを活用することで、適切な情報共有に繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりやこれまでの生活歴を通して、利用者個々の要望を夢と称し、状況に応じてその実現に繋げている。家族についても面会時や運営推進会議等で挙げた要望、意見をもとに、時には支援に加わってもらう等サービスの多機能化に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の教育機関や自治会、地区社協との関わりを重ねており、イベント等の実施や参加にも積極的に実施できている。多世代間の関わりは、適度な刺激をもたらすことから、今後も継続し更なる地域資源との関係を深めていく。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のクリニック等の施設主導ではなく、利用者や家族が納得し、信頼するかかりつけ医への受診を支援している。かかりつけ医へも必要に応じて相談の連絡をすることで関係性の構築に努めている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携する訪問看護ステーションとは共通の記録を使用、保管することで体調管理と情報の統一化を図っている。訪問時における受診の必要性の有無を始め昼夜問わず電話相談できていることは、人員が手薄になる特に夜間に功を奏している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院後の安心した生活に向けて、適宜医療機関の関係者との情報共有に努めている。時には入院機関とかかりつけ医の連絡調整を行うこともあるため、慎重かつスムーズな連絡調整に向け、研修等を通して対応の知識の習得に力を入れている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に説明、意向確認を行っている。本人、家族の体調に合わせて意向も変化するため、必要に応じて医療職を始めとした関係職種を交えながら、再確認を実施している。再確認の際には、本人や家族の心情に配慮しながら進めることで、より詳細な意向を把握することとしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備と定期的な研修を実施することで、意識と知識の向上に繋げている。AEDや吸引器等の備品も整備し、その使用方法についても定期的な普通救命講習や看護師による内部研修を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所との定期的な訓練を実施することで、災害発生時に備えている。訓練時は市の消防本部職員の立ち会いのもと、訓練の講評を受けることで、次の訓練にも活かすこととしている。避難経路も複数設けており、設備の充実させているため、比較的安全性は高いが、今後も訓練を重ねることで対策意識を高めていく。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を敬うべき存在として捉え、専門職としての在るべき姿勢を実践できるよう、人格尊重にも通じる職員研修を実施している。声かけの内容や場所によって、その大きさに配慮し、特にプライバシーに係る部分については、十分に言葉を選びながら支援している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のコミュニケーションの中から利用者の意向や希望を把握できるよう、些細な言動や利用者間の会話の中からも把握するようにしている。食事や入浴を始めとした日中活動では、自己決定できるような声かけの内容意識している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員の流れを優先せず、利用者個々のペースや希望を確認した上で、充実した一日となるよう支援している。安全面に配慮し過ぎるあまり、それが動きの制限とならないよう、一定の注意力を持ちながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着用する衣類は、利用者自身に選択してもらっており、コミュニケーションの一つにもなっている。その人らしい身だしなみとそれに係る一連の流れは、生活意欲の向上に繋がると捉えた上で、化粧のサポートや理美容の利用も支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の設置や配膳、注ぎ分け等、利用者それぞれが役割を持って取り組んでいる。食事自体も味付けはもとより、食器の種類、メニューや色合いにもこだわり、食欲が向上するよう取り組んでいる。日々の体調や気分に合わせて、摂取を促す声かけも工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の正確に把握できるようチェック表を用い、定期的な体重測定や訪問看護による体調管理をもとに現状把握に努めている。適宜併設施設の管理栄養士へも相談し、補助食品導入や食事形態にも柔軟に対応し、摂取量増やしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を徹底することで清潔保持に努めている。口腔体操も食事前に限らず、心身状態に合わせて適宜実施している。協力歯科が基本ではあるが、状況に応じて別の歯科受診の支援も行っている。協力歯科の歯科衛生士にも適宜相談し、職員の知識向上にも繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつ中心にならないよう、排泄パターンを把握した上で、声かけのタイミングに配慮している。トイレまでの移動や排泄に係る一連の動作においても、本人ができるところまで。を活用しながら支援をしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を用いることでタイムリーな状態確認を行い、情報共有にも取り組んでいる。水分摂取が少量の場合は形態を工夫し、運動も排泄の促しに繋がる内容に取り組みながら、訪問看護の体調確認時には助言等を得ることとしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間や順序は事前に決めず、提供時間に余裕を持たせることで、本人の希望に沿ったタイミングで実施している。皮膚状態に合わせて石鹸等の備品を使い分け、どのような身体状態であってもゆったりと浴槽に浸かれるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	良質な睡眠は、心身状態の安定にも繋がるため、日中の過ごし方を把握した上で適宜休息を促している。ベッド及び寝具類は、心地良い睡眠となるよう、落ち着いた色合いと感触の良いマットレスとしている。システムによるリアルタイムでの睡眠状況をもとに休息等の声かけのタイミングにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりに服薬カレンダーを用いて管理している。セット時や服用時には必ず声出し確認を基本に二重チェックを行っている。かかりつけ医の他、必要に応じて薬局にも連絡することで、様々な薬に関する知識を得る機会としている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ある程度の簡単な役割は担っていただいているが、趣味活動や楽しみごとについては、一人ひとりに合わせての内容が充実しているとは言えない。食事関係や環境整備関係以外にも取り組めることを見出す必要がある。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のみではなく、都合を合わせて利用者と家族との外出も支援している。馴染み深い場所への外出は、生活意欲を向上させる一つのきっかけとなっている。近隣の公園等への散歩や併設施設へも積極的に出向くことで、より開放的な日常を意識できるよう努めている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●家族等の協力を得て、利用者それぞれに財布を準備してもらっている。日常の買い物や外食の際は、本人のペースに沿って支払うまでをサポートしている。お金に関わる頻度が多いとは言えないため、施設内においても見て触れる機会を増やすことで、お金に対する意識の向上を図りたい。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時利用者の希望に応じて電話ができるよう支援している。手紙については年賀状を出す等単発的であるため、継続性のある内容に取り組むことで、安心感や関係性の向上に繋げたい。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間と共用部を中庭を挟むことで、プライバシーと集団の場を明確に分けている。日中のリビングや居室には温かい陽射しが差し込み、室内の壁紙や備品関係も温かみのある色あいとなっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部とは別に多目的室を設置し、独りの時間や少人数での時間、家族等と思い思いに過ごせるスペースとしている。宿泊に必要な備品も準備している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基準以上の広さを確保することで、車椅子等でのスムーズな移動も可能となっている。落ち着ける空間となるよう、室内には馴染みのものを持ち込んでもらっている。こまめに室内を清掃し24時間換気による空気の入れ替えにも気を配っている。出窓や室内外の収納も充実させ、必要なものが手に届きやすい造りとしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行の維持に向け、建物全体に手すりを設置している。室内歩行時の休憩場にもなるよう共用部と居室間にベンチを設置している。居室内にトイレが無い分、共用部での設置数を増やし、その設備等も自立と安全面に配慮したものとしている。ベッド用の可動式サイドバーは、自力での移乗や立位の補助として活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない